
漆黒へのカウントダウン

如月乙姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

漆黒へのカウントダウン

【Zマーク】

Z0825E

【作者名】

如月乙姫

【あらすじ】

始まりは二十年前のジョディの両親が殺害されたところから……少しずつ動き出す……それぞれの運命のカウントダウン……黒の組織と直接対決！……黒の組織……そして、FBIの運命は？？

二十年前

バンッ！！

一発の銃声が響き渡つた。

ここはアメリカ。

FBIがトアル組織を追つて動いている。

今、殺された男はFBI捜査官だった。

そして、殺した女は組織の幹部。

女　ベルモットはダークレッドの口紅が塗られた唇を妖しげに微笑ませた。

その時だつた。

「Who are you？」

（貴方、誰？）

少女の声だつた。

ベルモットは男の眼鏡を手にしたまま、人差し指を唇の前で立て、シーツと、言つた。

「It's a big secret...」

I can't tell you...」

（秘密よ秘密：

教えられないわ…）

ベルモットは少女を見つめて続ける。

「A secret makes a woman woman...」

（女は秘密を着飾つて美しくなるんだから）

少女は目を開き、続いてベルモットが手にした物を見る。

「Those are my daddy's glasses」

（パパの眼鏡）

ベルモットは気付いたように眼鏡を渡す。

「Oh - sorry...」

(あ、ごめんなさい…)

眼鏡を受け取った少女は床に倒れる父親を見つめて言った。

「How is he doing?」

「Is he asleep already?」

(パパどうしたの?)

(もう寝てるの?)

残念そうな顔をする。

「He promised me a bedtime story...」

(寝る前に絵本、読んでくれるって言つてたのに…)

ベルモットは妖しげに微笑んだ。

「So, will you be with daddy until he wakes up?」

(じゃあパパが起きるまでそばにいてあげてくれる?)

悪魔のよつこ囁くと少女は嬉しそうに微笑んだ。

「Yes!」

(うん!)

それを見たベルモットは妖しげに微笑んだ。

「Good-bye, little girl!」

(さよなら、お嬢ちゃん)

ベルモットはそう言い残して家を出た。

その後、家は炎上。

焼け跡からは少女の遺体は見つからなかつた。

女が立ち去った後、少女 ジョディ・スターリングは冷蔵庫を覗いた。

「あつ…パパのオレンジジュースがなくなってる」
ジョディは財布を持って外に出た。

明かりのついた店を見つけた時だつた。

「ジョディちゃんね??」

後ろから声が掛り、ジョディは振り返つた。

「うん…おじさん、誰??」

「私はジェイムズ・ブラック。君のパパの友達だ」
「パパのお友達??」

「そうだよ。パパに頼まれて君を迎えて来たんだ」
ジェイムズは手を差し出した。

「一緒に行こう」

ジョディはジェイムズの手を握る。

「うん!!」

二十行程、車で走り、着いた先はFBI本部だつた。

「ここはどこ??」

「FBI本部だよ」

そして、ジョディはここで両親が殺された事を聽かされた。

「君はある危険な組織の人間に顔を見られた…君に証人保護プログラムを受けて欲しい」

ジョディはジェイムズを睨み叫んだ。

「イヤだ!!!!」

すると、ジョディより一歳年上の少年が部屋に入つて來た。

「何かあつたんですか??」

「いや…なんでもないよ、赤井君」

「お前もか…証人保護プログラムを拒否したのか??」

少年はジョディに話しかける。

「う、うん」

「そうか…俺もだ」

少年は落ち着き払つて答えた。

「俺は赤井秀一だ」

「わ、私はジョディ・スター・リング…」

「ジョディか…宜しくな」

「よ、宜しく」

ジョディは秀一が差し出した手を握り、握手をした。

「ジョディ君…受けて欲しい…考へてくれるかね??」

ジョディはジェイムズを見た。

「受けてもいいけど…」

ジェイムズが安心しかけた時だった。

「でも、それを受けるかわりに私もFBIに入れて…!」

ジェイムズは驚き、秀一は密かに笑みを浮かべた。

「パパとママを殺した人を捕まえたいの…!!!!」

「ジョディ君…気持ちは分かるが…」

ジェイムズは困ったようにジョディを見た。

「とりあえず、君の言い分は分かった…とりあえず、別室で少し落
ち着いて」

ジェイムズは女性捜査官にジョディを任せた。
そして、秀一を見る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0825e/>

漆黒へのカウントダウン

2010年10月28日02時58分発行